


 いわき市立総合磐城共立病院

# 地域医療連携室だより

## 医療の役割分担と連携の必要性

いわき市立総合磐城共立病院

副院長兼地域医療連携室長 増山祥二



平成25年4月より副院長兼地域医療連携室長を拝命した増山と申します。地域の医療機関ならびに当院地域医療連携室にご登録いただいている先生方・医療機関の皆様には、日頃よりいろいろとお世話になり、衷心より感謝申し上げます。

当院は地域医療の中核病院、特に急性期医療機関の役割を果たすべく、日々努力しているところであります。特に地域医療機関との連携を緊密にし、連携室に看護師長1名、看護師1名、事務方3名の体制でスムーズな業務を遂行すべく努力しております。

患者さんが医療機関から医療の提供を受ける形態は、病気やけがの内容・程度によって、医療機関へ通院する場合、症状が重く入院が必要な場合、治療困難な疾病等のため高度専門的な病院で治療を必要とする場合、などさまざまです。このため、医療機関ではかかりつけ機能を中心とした日常的な医療を基盤としながら、必要に応じて専門的な治療が受けられるように、地域の医療機関が役割を分担しつつ、それぞれの専門性を高めていく必要があります。厚生労働省の報告書では、日本の医療の問題点として、大病院、中小の病院、開業医の役割分担が明確でない結果、「拠点となる大病院などに外来患者が集中し、勤務医に過度の負担がかかっている」と指摘し、大病院は「質の高い入院治療が24時間提供されるよう、原則として入院治療と専門的な外来のみを基本とする」と明記しております。近年全国的な問題として、コンビニを利用するような感覚で、夜間や時間外に安易に病院に駆け込む事例が増加し、勤務医師が過重労働となり疲れ果てて退職してしまうこと等により、診療体制が弱体化してしまうといった問題です。安全で安心して良質な医療を受けられるよう、医療機関の役割分担や病院の医師の労働環境に関する理解が必要となっております。以下に、一次から三次までの医療の簡略なまとめを記載します。

### ①初期（一次）医療

一次医療（プライマリ・ケア）は、通常みられる病気や外傷などの治療のみでなく、疾病予防や健康管理など、地域に密着した保健・医療・福祉にいたる包括的な医療であり疾病等の状態によっては専門的な医療機能を持つ病院等、他の医療機関と連携した適切な対応が必要となっております。主として地域の診療所や病院がその役割を担っています。


**【いわき市立総合磐城共立病院 地域医療連携室】**

電話 0246 (26) 2250 (直通) FAX0246 (26) 2119

 U R L <http://www.iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp>

 E-mail [kyoritsu@iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp](mailto:kyoritsu@iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp)


### ②二次医療

二次医療は入院医療および専門外来医療を提供するもので、診療所は他の医療機関と連携して機能連携を図ることが望まれます。主として地域の中核的病院がその役割を担っています（当院はこれに当たります）。

### ③三次医療

特殊・先進的な医療に対する特殊な診断を必要とする高度・専門的な医療であり、先進的な技術と特殊な医療機器の整備を必要とします。主として専門的な医療スタッフによる対応が可能な特定機能病院や大規模病院などがその役割を担っています。

医療機関の役割分担の考えから、一般の患者さんは「まずはかかりつけ医を受診する」こととなります。そのためには、診療所を中核的な病院がバックアップしている姿を明示し、医療機関もそれぞれの役割を自覚し、適切かつ効果的に対応できる連携体制づくりが重要です（なお、所在する二次医療圏内では対処できないような、高度で特殊な医療が必要な場合には、他の二次医療圏と連携することが必要な場合もあります）。医療施設や医療従事者などの医療資源は無限ではありませんので、患者さんが安心して満足度の高い医療を受けるためには、この医療連携の必要性を理解し、有効活用を図っていく必要があります。医療連携のあるべき姿は、医療機関の医療機能のみに応じた単なる患者さんの転院・治療ではありません。地域内での医療機関相互の連携を円滑に行うためには、医療機関がお互いに、どの医療機関がどのような役割を果たすことができるのか、といった医療機能等の情報を共有することが重要です。そのためには、医療機関がそれぞれの医療機能等についての情報を自ら進んで提供・開示することが望まれます。具体的には、医療スタッフの専門性、受け入れ可能な患者さんの状態等の情報がわかると、よりよい地域医療連携ができるものと思います。当院では、本年4月にホームページの診療科案内を更新し、最新の情報を提供しておりますので、ご参照下されば幸いです。



当院は、今後も地域医療の中核としての役割を担い、いわき地区の医療の充実にさらに寄与していく所存です。地域医療連携にご参加いただいている先生方・医療機関の皆様におかれましては、「かかりつけ医」としての役割をお願いし、これは共立病院で診療する必要があると判断されましたら、速やかにご紹介願えれば幸いです。図1は平成17年度から24年度までの当連携室利用患者数の月平均の人数を示したグラフです。着実に紹介患者さんは増えてきており、当連携室をご利用いただき感謝しております。ますますの当院への皆様のご理解と、地域の先生方・医療機関の皆様のご協力を、今後ともなにとぞよろしくお願い申し上げます。

診療科紹介

消化器内科

消化器内科科主任部長

池谷伸一



樋渡信夫 院長	S48	下部消化管
中山晴夫 副院長	S55	肝臓
池谷伸一 主任部長	S60	肝胆膵
高橋成一 部長	H2	下部消化管 東北大学大学院医学系研究科 「消化器地域医療医学講座」客員教授
池田智之 部長	H5	肝胆膵
大楽尚弘 科長	H6	上部消化管
土佐正規 科長	H12	下部消化管
伊藤広通 科長	H14	胆膵
渡部敬之 医長	H20	消化器全般
駒沢大輔 医長	H21	消化器全般
岡本大祐 医師	H23	消化器全般
ほか嘱託医 5名		

### 【特徴】

当院は、救命救急センターをもち、診療圏は福島県浜通りから茨城県北部と周辺地域をあわせると約50万人の診療圏をもつ高次機能病院であり、地域医療支援病院、福島県がん診療連携推進病院の指定を受けております。当科も周辺医療機関が対応できないような高度医療や緊急疾患への迅速な対処ができる態勢を取っており、2010年5月には専門高度診療センターとして「炎症性腸疾患センター」、「肝炎対策センター」を設置し、地域における高度専門医療を担っています。

消化器内科のスタッフとしては上部消化管、下部消化管、肝疾患、胆膵疾患と各パートに指導的な人材を配置し、それぞれの専門的な最先端の手技を生かし、協力しあって日々診療に携わっております。

また2012年12月には消化器疾患の研究・診療拠点として、これに従事する優れた専門人育成を行い、消化器疾患の制圧に向けた地域社会の要請に応える研究・教育活動を推進することを目指し、東北大学大学院医学系研究科と当院との間で連携講座「消化器地域医療医学講座」が設置されました。

### 【症例・治療・成績】

消化器内科入院ベッド 84床、年間入院数 1,790人、うち悪性新生物 582人。(2012年)

#### ★食道・胃十二指腸疾患

上部消化管内視鏡検査は2012年 4,145例、うち消化管出血などの時間外の緊急内視鏡検査は132例行い、純エタノール局注・クリップ法・凝固止血などでの内視鏡的止血術を施行しました。

食道疾患：EIS（内視鏡的静脈瘤硬化療法）は2012年45例、食道腫瘍に対するESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）/EMR（内視鏡的粘膜切除術）計8例。進行食道がんに対しては、外科や放射線科と連携し集学的治療を行いました。

胃疾患：胃腫瘍に対するESD/EMRは2012年 計67例。

進行がん症例に対しては、外科との合同カンファランスにて治療方針を決定し、化学療法も積極的に実施しております。

また、連携病院や院内他科からの依頼を受けての内視鏡的胃瘻造設術は2012年48例行っております。

#### ★大腸疾患

下部内視鏡検査は2012年 2,166例、ポリペクトミーは 336例行い、急増する大腸疾患に対応できるように、毎日大腸内視鏡検査を行う態勢を取っています。

また、樋渡信夫院長、高橋成一客員教授を中心とした専門スタッフが診療にあたり、潰瘍性大腸炎やクローン病といった IBD（炎症性腸疾患）の治療にも力を入れており、生物学的製剤による治療や血球成分除去療法なども積極的に行っております。

2010年5月には炎症性腸疾患センターを開設し、現在通院中のIBDの患者さんは、潰瘍性大腸炎 150名、クローン病 70名を超えています。

大腸がんに対しても、適応を考慮しながらESDを行っております。進行大腸がんに対しては、外科との合同カンファランスにて治療方針を決定し、急速に進歩している分子標的治療薬を含む化学療法も積極的に行っております。

小腸病変については、カプセル内視鏡やバルーン内視鏡も実施しております。

★肝疾患

開院以来多くの肝疾患患者が集まり、B型、C型、NASH（非アルコール性脂肪肝炎）等の疾患の診療を行っており、2010年5月には肝炎対策センターを開設しました。B型肝炎では、核酸アナログ製剤の治療や、インターフェロン治療なども併用し治療向上に寄与しています。

また、C型肝炎に対しても、現在までインターフェロン治療をのべ約1,300例に施行し、これまで約半数に著効が得られています。最近ではペグインターフェロン・リバビリン・テラプレビルの3剤併用療法を行いC型肝炎難治症例の治療成績が著しく向上しております。進行肝疾患に対してもペグインターフェロン単独長期治療、あるいは初回無効症例に対する再治療なども積極的に実施しております。

近年、肥満人口の増加と共に、脂肪性肝疾患合併患者が多くなり、チーム医療として栄養士に積極的に介入してもらいながらインスリン抵抗性や酸化ストレスに対して総合的な対策も行っております。

肝がんは、1,400例を超える症例の実績に基づき、MDCT、MRI、CTAP/CTA、造影超音波などを駆使して診断し、手術不能例に対して、2012年の実績でRFA（ラジオ波焼灼治療）28例やTAE（肝動脈塞栓術）82例などの治療を施行しました。また、分子標的薬などを用いた新しい化学療法もこれまで多数例実施しております。

★胆膵疾患

人口の高齢化・食生活の欧米化とともに最近胆膵疾患が著明に増加しています。

2012年はPTCD（経皮的胆管ドレナージ）10例、PTGBD（経皮的胆嚢ドレナージ）7例、ERBD（内視鏡的胆道ドレナージ）/ENBD（内視鏡的経鼻胆道ドレナージ）計111回、EST（内視鏡的乳頭切開術）135回、内視鏡的採石術142回など、胆膵疾患の急性期治療から悪性疾患に対するステント術まで幅広い治療を施行しております。

また、外科との合同カンファランスにて治療方針を決定し、膵がん・胆道がんの手術不能例には化学療法なども行っています。



診療科紹介

救命救急センター

救命救急センター長

小山 敦



この地域医療連携室だよりも第25号となり、診療科紹介2周目となります。救命救急センターリニューアルから約10年、何度かスタッフ不足から継続が危ぶまれておりましたがここまでくることが出来ました。これも皆様のご協力のおかげです。改めてお礼申し上げます。

さて、現在の当科は、昨年度の常勤2名体制から、後期研修医2名をむかえ、常勤4名+応援医師+初期研修医の総勢4～6名で救急車対応および集中治療を担当しています。

●診療体制

平日日勤帯は全員で、休日夜間は元々2名体制でしたが、近年休日夜間帯の搬送数増に対応するため2～4名が必要です。休日夜間帯を仮に2名に抑えたとして、すべて常勤医で対応するためには8名いても一人平均10回の日当直が必要となり、スタッフはまだまだ足りないと考えています。

現在の体制がなんとか維持されているのは、

- ①後期研修医が、月15～20回の日当直をこなしていること。
- ②各方面からの応援医師に支えられていること。
- ③院内の内科外科輪番体制や、地域連携により、状態の安定している患者の転科転院が以前よりスムーズになっていること。

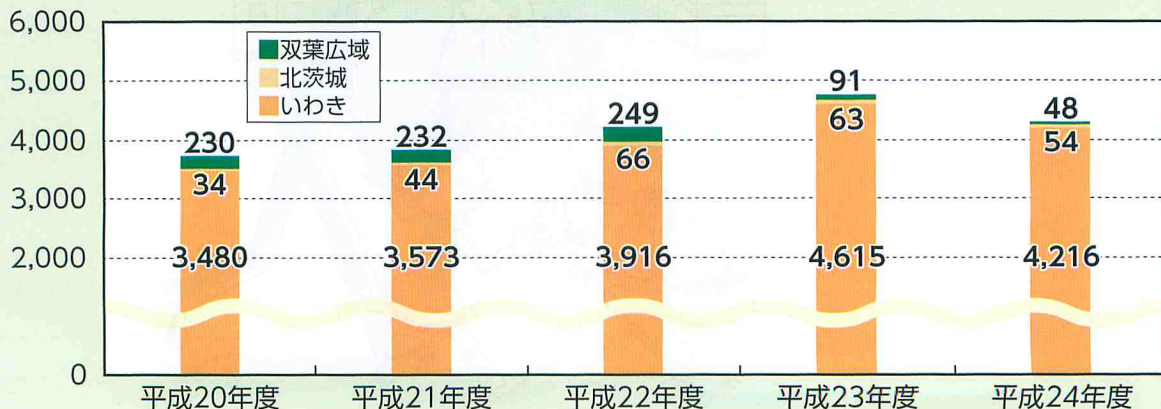
などに負うところ大です。決して安定的に維持されているとはいいがたく、引き続き常勤医確保にむけて努力していきたいと思えます。

●今後の課題

ここ数年の救急車搬送数をみても一昨年は、震災の影響で著増したと思われませんが、年々増加傾向にあり、このままではいつか対応困難事案が多発する事態になりかねません（グラフ1）。

救急車地域別搬入状況（過去5年）

【グラフ1】

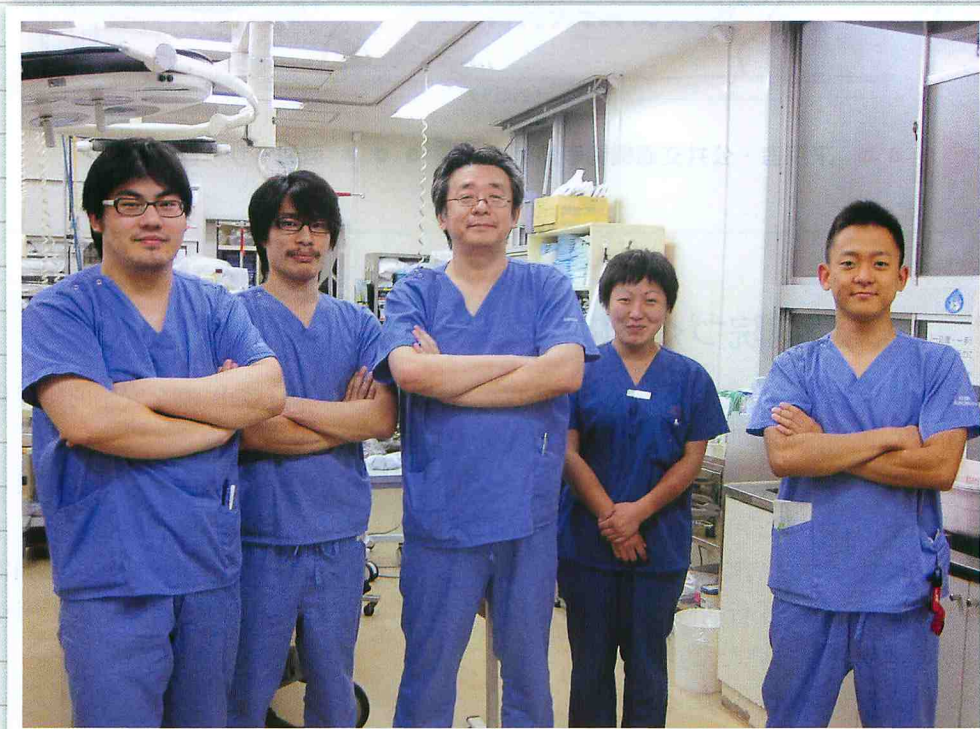


当科は、浜通り唯一の救命救急センターとして、重症患者への対応が最大の使命であると考えています。しかしながら現実には重症患者とほぼ同数の軽症患者が搬送されており、この多くは搬送先がなかなか見つからなかった事案です（グラフ2）。

平成24年度救命救急センター傷病程度（いわき市消防本部） 【グラフ2】



救急搬送が重なって対応困難になるということもありますが、救命救急を志す若い医師たちや応援医師のモチベーションを下げてしまうことも危惧されます。2次輪番病院をはじめ、地域全体の医療機関での連携や役割分担がよりいっそう必要となってきたと思います。今後ともますますのご理解ご協力をお願いいたします。

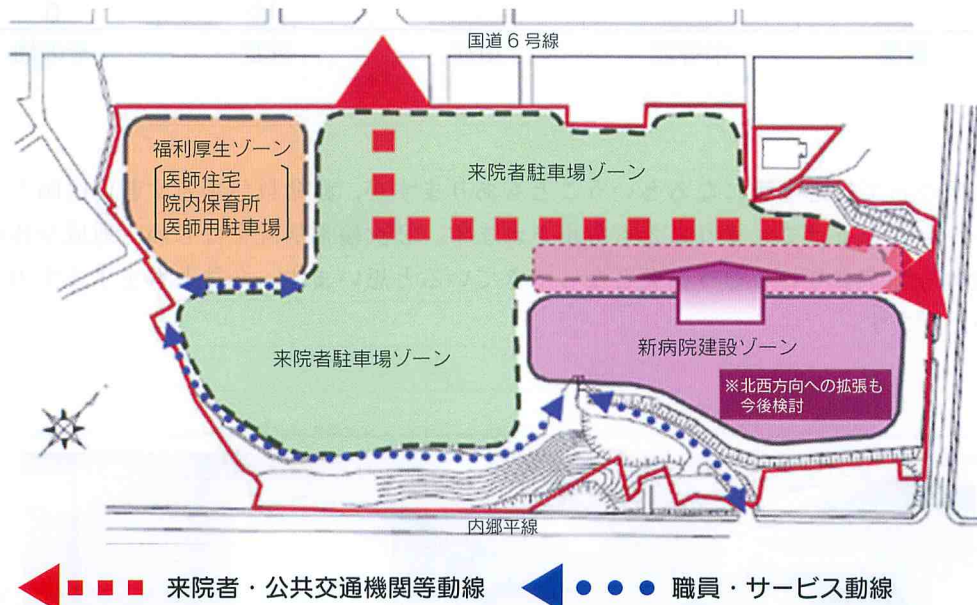


## 新病院に向けた取組みについて

新病院の建設に向けては、昨年12月に策定した「新病院基本計画」に基づき、現在、建築基本設計や造成設計に取り組んでおり、平成28年度内の本体工事の完成を目指し、作業を進めています。今回は、新病院の施設等配置図（案）について紹介します。

新病院の施設等配置図（案）・・・現時点でのイメージです。

- 敷地南東側を中心に新病院を配置し、周囲に来院者駐車場を確保します。
- 敷地北西側には、医師住宅、院内保育所などの職員利便施設を配置します。
- 進入路の整備など国道6号線とのアクセス向上や、公共交通機関利用者の利便性向上に配慮します。



### 新病院づくり応援基金への寄附のお願い

現在、総合磐城共立病院では、将来にわたり市民の皆様へ安全・安心の医療を安定的に提供していくために必要不可欠な新病院の早期建設に向けた取組みを進めております。

こうした取組みの一助とし、新病院づくりに向けた市民の皆様への機運の醸成や新病院建設に向けた財源確保を図る観点から、平成23年3月に「いわき市新病院づくり応援基金」を設置しております。

総合磐城共立病院では、新病院づくりを応援していただける市民の皆様や団体等からの御寄附を受け付けております。御厚志は、「新病院づくり応援基金」に積み立て、今後の新病院建設工事や医療機器の整備等に有効に活用させていただきます。

皆様の温かい御支援をお願いいたします。

※詳細は、病院建設課のホームページをご覧ください。



## 新任医師紹介



消化器内科

**高橋 成一** 医師

東北大学消化器内科より、  
4月から赴任いたしました。  
伊達郡川俣町出身です。  
東北大学消化器地域医療医学講座を担当しております。  
宜しくお願い致します。



整形外科

**菅野 敦子** 医師

菅野敦子です。  
1年ぶりに共立に戻ってきました。  
再度ここで働けることに喜びを感じています。  
宜しくお願いいたします。



整形外科

**齋藤 秀雄** 医師

平成13年、久留米大学卒です。  
宜しくお願いします。



整形外科

**小林 洋** 医師

4月より赴任しました。  
平成16年度福島医大卒業の小林 洋と申します。  
宜しくお願いいたします。



形成外科

**大島 純弥** 医師

筑波大学から赴任いたしました。  
精一杯頑張ります。  
宜しくお願いいたします。



形成外科

**西畠 暁生** 医師

青森県出身です。  
福井大学を卒業しました。  
宜しくお願いします。



脳神経外科

**園部 真也** 医師

お世話になります。  
色々な方々とのつながりを大切にして、明るく、楽しく、  
元気に頑張ります。  
宜しくお願い致します。



泌尿器科

**藤井 紳司** 医師

八戸より異動してきました。  
快適な気候のいわきに来ることができて非常に嬉しく思います。  
漸く専門医資格を取得したばかりですが、いわきの医療に少しでも貢献できるよう、誠心誠意、日常診療に邁進する所存です。



眼科

小林 航 医師

平成25年4月より東北大学病院眼科から赴任致しました小林 航です。

宜しくお願い申し上げます。



歯科口腔外科

加藤 久視 医師

平成25年4月より赴任しました。出身は岐阜県で、福島で生活するのは初めてですので、微妙な言葉のリズムが耳に心地よく、新鮮な気持ちで診療にあたっています。

一生懸命頑張りますので、宜しくお願いいたします。



外科

小川 仁 医師

平成25年4月より、東北大学胃腸外科から赴任いたしました。

専門は下部消化管外科、炎症性腸疾患です。

よろしくお願いたします。



外科

三浦 孝之 医師

4月より赴任しました。消化器癌に対し、根治性と安全性を考慮した外科治療を提供したいと思ひます。

宜しくお願い致します。



外科

伊勢 一郎 医師

はじめまして。3月に順天堂浦安病院で初期研修を終え、4月より外科後期研修させていただいている伊勢一郎です。

先生方、職員の方々にご迷惑をおかけする事も多く、自分の未熟さを痛感する日々が続いていますが、良医になるという目標に向かって日々精進する所存です。

ご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



小児科

石井 まり 医師

平成14年岩手医大卒です。いわき市出身です。

今後は地元の医療に貢献したいと思ひます。

宜しくお願いいたします。



小児科

芳賀 光洋 医師

4月より赴任しております。地域のためになるように頑張りたいと思ひます。

宜しくお願い致します。



小児科

齋藤 秀憲 医師

東北大学小児科より4月から赴任いたしました、齋藤秀憲です。

いわきの小児医療に少しでも貢献できる様に頑張ります。宜しくお願いいたします。



未熟児新生児科

羽田 謙太郎 医師

福島医大より4月に赴任いたしました。

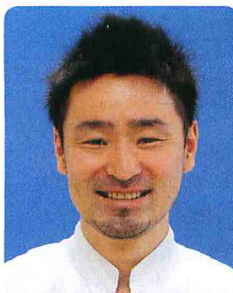
新生児科医として、いわきの赤ちゃんやご家族のために頑張っていきたいと思います。よろしくお願いたします。



耳鼻咽喉科

大越 明 医師

4月から赴任しました。福島市出身です。よろしくお願いたします。



麻酔科

八木下 健 医師

4月から麻酔科に入局します八木下 健です。

いわきの医療に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願致します。



心臓血管外科

入江 嘉仁 医師

心臓外科医29年目です。定型的手術から最新鋭の低侵襲治療まで、患者のニーズに応えます。皆様と共に、いわきの医療に情熱を注いでいきます。よろしくお願いたします。



心臓血管外科

坪井 栄俊 医師

2013年4月より赴任しました。2009年4月から2010年6月まで磐城共立病院赴任歴があり、3年ぶりに戻って参りました。

患者さんが多くとても忙しい毎日ですが、走り続けて行きたいと思います。



救命救急センター

溝渕 大騎 医師

平成25年4月より救命救急センターに赴任しました。福島県の医療に貢献できる様頑張りますので、よろしくお願致します。



研修医

鵜川 竜也 医師

4月からお世話になっております、研修医1年目の鵜川竜也です。

より多くのことを学べるよう頑張りたいと思います。よろしくお願致します。



研修医

新田 夢鷹 医師

4月から研修医として勤務させて頂くことになりました、新田夢鷹です。

先生方並びにスタッフの方々からのご指導を賜りながら、一つ一つ成長していきたいと思ひます。よろしくお願いたします。



研修医

**谷山 禎彦** 医師

4月から初期研修医になりました。

東北大学出身です。  
早く仕事を覚えて役に立てようがんばります。  
よろしくお願いします。



研修医

**津久井 良昌** 医師

初期研修医の津久井です。

この2年間で多くのことを学びたいと思いますので、よろしくお願いします。



研修医

**渡辺 秀平** 医師

平成25年3月に福島医大を卒業し、4月より研修しております。

まだまだ未熟ですが、よろしくお願いします。



研修医

**須田 寛美** 医師

歯科研修医の須田です。

生まれはいわきで、新潟大学歯学部が出身校です。

地元の医療に貢献できるよう、がんばりたいと思います。

## 地域医療連携室への予約について

予約の際は、「**地域医療連携診療予約申込書**」及び「**紹介状(診療情報提供書)**」を当室までFAXにてお送りください。

また、予約に関してご不明な点がございましたら、下記まで電話でお問い合わせください。

**予約受付時間 8:30 ~ 17:00**

**[土・日曜日は受付していません]**

いわき市立総合磐城共立病院 地域医療連携室

電話 0246(26)2250(直通)

FAX 0246(26)2119